

令和5年5月10日

報道機関 各位

熊本大学

1651年に熊本藩から薩摩に派遣された密偵の報告書 18カ条を発見、初期薩摩藩政の実像が明らかに

(ポイント)

- 熊本大学永青文庫研究センターによる熊本藩第一家老松井家の文書群の詳細調査で、1651年に薩摩に派遣された密偵の報告書18カ条（慶安4年2月27日 村田門左衛門申上覚）の原本が発見されました。
- 当該期の鹿児島藩に関する歴史資料は大半が失われており、本史料から得られる多様な情報は、初期鹿児島藩政の研究にとって極めて重要です。
- 報告の背景には、九州が対外的な脅威にさらされる中で、琉球及び八重山諸島などを実効支配し、琉球や明との交易を展開していた薩摩の抑えが、細川家の重要な役割として浮上したという事情がありました。

(記者発表について)

本研究成果について、詳細を説明する機会を以下のとおり設けます。

参加をご希望の場合は、お手数ですが、別紙1「連絡票」により、5月15日（月）までに本学総務部総務課広報戦略室までご連絡願います。

・日時：令和5年5月18日（木）10:30～12:00（予定）

・場所：熊本大学黒髪南キャンパス 工学部1号館2階共用会議室A

(概要説明)

熊本大学永青文庫研究センターの後藤典子特別研究員は、1651年に熊本藩細川家から薩摩に派遣された密偵の報告書18カ条（慶安4年2月27日 村田門左衛門申上覚）の原本を「熊本大学所蔵松井家文書」の中から発見し、同センターの稲葉継陽教授とともに解読を進め、初期鹿児島藩政に関する多くの未知の情報が記載されていることを明らかにしました。

海外と独自の交易関係を維持し、後には明治維新の中心勢力となる鹿児島藩ですが、じつは、幕末・明治期の戦禍等によって、鹿児島にあった多くの歴史資料が失われています。今回、初期鹿児島藩政に関する未知の情報を熊本で発見することができました。

17世紀中期鹿児島藩の税制、金山開発、異国船警備、琉球支配、経済・財政状況、さらには、先ごろ御楼門・本丸のあったエリアが国史跡に追加指定されることになった鹿児島城の石垣・門の構築過程や被災の状況、また一向宗の信者を屋久島などへの流刑に処していたことを示す記述は、多くが初め

て知られるものです。

さらに、熊本藩から薩摩に密偵が派遣された事情も注目されます。17世紀中葉、大航海時代のあと、特にスペインの日本侵攻の脅威とキリシタン問題などによって、いわゆる鎖国体制へと突入しますが、崩壊に瀕した明から数十回に及ぶ日本への援助要請があるなど、その時期、特に九州は対外的な脅威にさらされていました。そうした中で、琉球及び八重山諸島などを実効支配し、琉球や明との交易を展開していた鹿児島藩に対する警戒から、「薩摩の抑え」が熊本藩細川家の重要な役割になっていました。密偵の派遣はこうした状況で行われていました。

今回の記者発表（5月18日（木））当日は、鹿児島藩研究の第一人者である原口泉氏（志學館大学教授、鹿児島大学名誉教授）からもご説明いただきますが、この発見を踏まえて、今後、熊本と鹿児島の研究者どうしの協働によって、次の点がより明確にされることが期待されます。

- (1) 初期鹿児島藩政に関する熊本側の情報集約による具体像の解明
- (2) 「鎖国」体制確立期における鹿児島藩の外交的位置に関する熊本藩及び幕府の認識の解明

（説明）

〔研究の背景〕

永青文庫研究センターでは、日本近世の社会と政治の全体像に接近するため、永青文庫細川家文書や庄屋文書とあわせて、熊本大学所蔵松井家文書36,000点の1点ごとの詳細調査に取り組んでいます。この古文書群からは、これまでも未知の史実を示す史料がいくつも発見されていますが、今回は鹿児島藩研究に資する多くの内容を含む発見であるため、原口教授との共同の記者発表に至りました。

〔本史料の歴史的背景〕

本史料は、慶安4年（1651）2月27日付けで村田門左衛門から葦北（佐敷）番代の職にあった坂崎清左衛門尉に出された18カ条の報告書の原本です。村田門左衛門は、肥後藩から薩摩藩に遣わされた「目付」（「横目」、密偵）で、葦北番代の重臣坂崎清左衛門尉を通して筆頭家老の松井興長に報告され、熊本大学所蔵松井家文書（約36,000点）の中に伝来しました。

当時は熊本藩主細川光尚（1619—1650）が慶安2年12月に急逝した直後で、わずか8歳の綱利が家督を継ぎ、小倉藩主小笠原忠真（1596—1667）が後見人となって、家老合議制のもとで治世が行われていました。鹿児島藩の当主は島津光久（1616—1695）でした。

細川光尚が1640年代に発給した複数の文書によれば、彼は薩摩との戦争さえ想定していたことが窺えます。薩摩島津家は鎖国後の海外貿易の場（口）の一つとして琉球口の管理を幕府に認められ、国家的な対外政策を担っていましたが、一方で、諸外国と結託する危険性も十分想定されました。

この頃、江戸では薩摩が大船20艘を建造して異国へ遣わしたなどという噂も飛び交っていたほどです。幕府の長崎奉行は、そのような江戸の情報を内々に肥後細川家に伝え、細川家に薩摩抑えの目付としての役目に期待していました。しかし、薩摩の琉球侵攻・支配の実態は不透明で、光尚は正保4年（1647）、

琉球へ異国船が到来して薩摩の御番衆（警備・警固にあたる者）がこれを打ち果たしたとの報を幕府にいち早く注進し、以後も薩摩の監視を怠りませんでした。

その後、病気で自らが「薩摩の抑え」の役割が果たせないことを心配しながら、光尚は慶安2年（1649）12月に亡くなります。しかし、その遺志は家老たちに引き継がれました。

本報告書は、こうした状況のもとで作成されました。報告者の密偵・村田門左衛門は、薩摩での任務をこなせる力量をとくに認められて抜擢・派遣された人物だと推察されます。

[成果]

本報告書を解読したところ、鹿児島県の史料が戦禍等で失われたために知り得なかった多くの情報が記されていることが判明しました（別紙2「発見史料の現代語訳」のとおり。以下の番号は別紙2中の現代語訳の項目）。

②人頭税制、③金山開発の凍結、⑤薩摩沿岸の異国船警備・防衛システム、⑥琉球・八重山支配、⑦⑧経済・財政状況、⑪⑫家老衆の権力分担にまで及ぶ情報は、いずれも重要です。

わけても注目されるのが、④鹿児島城本丸の石垣及び門の構築過程や被災の状況、また⑰鹿児島藩では厳禁であった一向宗の取り締まりと遠島刑との関係を示す報告です

④では、1651年段階での鹿児島城の藩主屋敷の石垣及び門の構築状況とともに、洪水による石垣被災について報告されています。ここは昨年、国史跡へ追加指定されることになった区域にあたり、国指定史跡鹿児島城跡の今後の調査と整備活用に資する情報としても極めて重要です。

⑰では、鹿児島藩によって摘発された一向宗信者が屋久島をはじめとする離島に流罪とされていた事実が報じられています。特異な一向宗禁制を敷いていた鹿児島藩の近世初期における信者百姓の処分の具体像を示す史料の発見は初めてであり、刑政史や屋久杉切り出しの歴史にも関係する内容です。

さらに、⑤⑥など対外関係に関する報告、⑦⑧の鹿児島藩財政・経済状況や、⑪⑫の権力構造に関する情報が含まれることは、東アジアにひらかれた鹿児島藩島津家に対する細川家・幕府の警戒ぶりを物語っています。

[今後期待される展開]

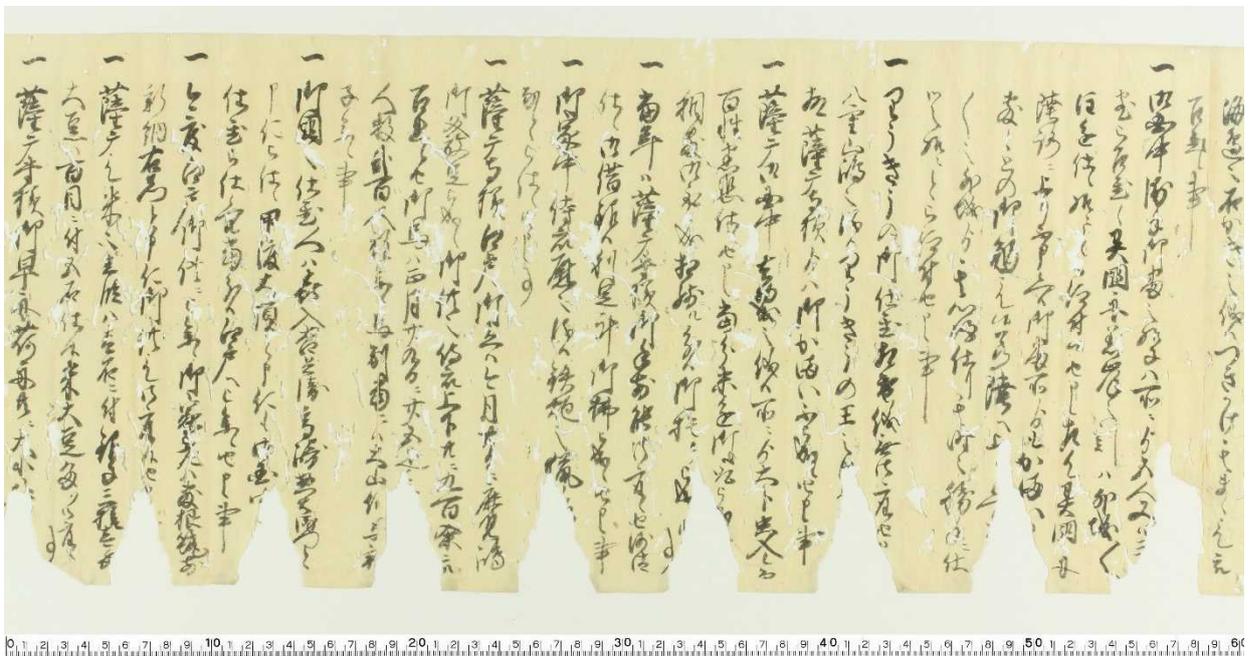
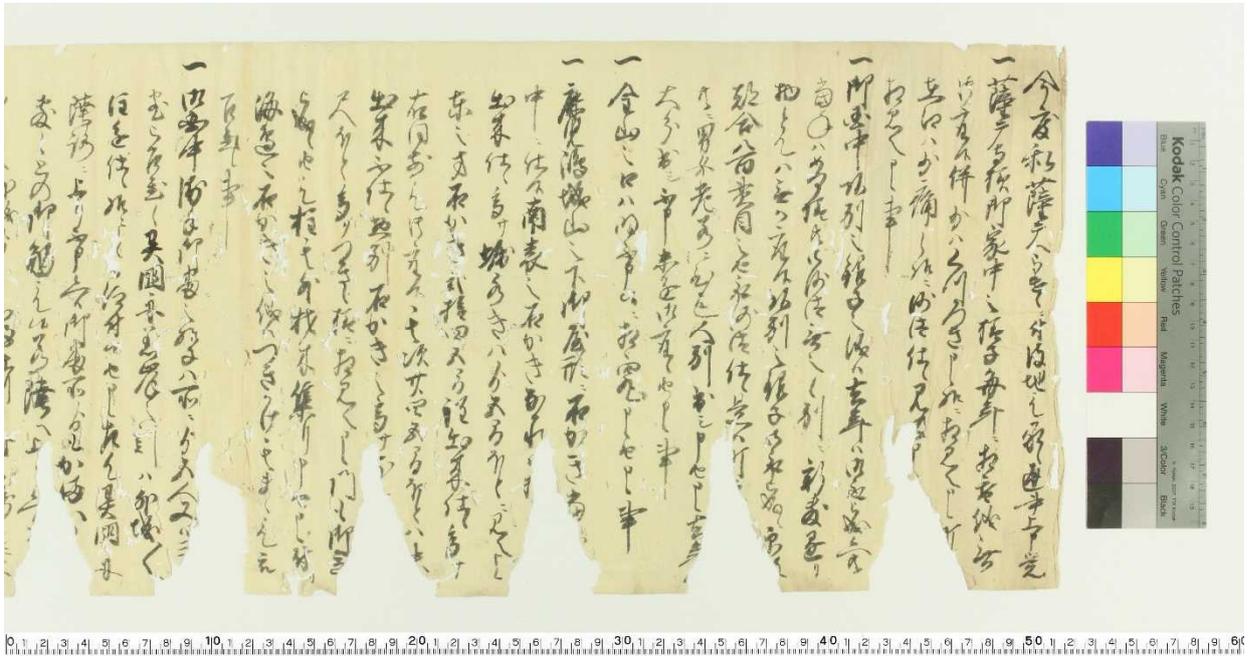
今後、熊本と鹿児島との共同研究によって、次の点がより明確にされることが期待されます。

(1) 初期鹿児島藩政に関する熊本側の情報集約による具体像の解明

「熊本大学所蔵松井家文書」の中には、鹿児島藩島津家の政治・統治に関する古文書がまだまだ多く含まれていると考えられます。熊本大学における基礎調査によって得られた知見を鹿児島の研究者と共有しつつ検討することで、不明な点も少なくない鹿児島藩政のあり方を解明し、後に明治維新の主体となる同藩の政治的基盤をより深く理解できるようになるはずです。

(2) 「鎖国」体制確立期における鹿児島藩の外交的位置に関する熊本藩及び幕府の認識の解明

上記と同様に、当該期の鹿児島藩の対外関係に関する情報を記した更なる史料の発見が期待されます。それらから得られる情報を総合し、当該期の鹿児島藩の外交的位置に迫ることは、「鎖国」体制確立期の東アジア情勢のより具体的な理解につながります。



【連絡票】

1651年に熊本藩から薩摩に派遣された密偵の報告書 18カ条を発見、
初期薩摩藩政の実像が明らかに

日時：令和5年5月18日（木）10:30～12:00（予定）

場所：熊本大学黒髪南キャンパス 工学部1号館2階共用会議室A
（熊本市中央区黒髪2-39-1）

貴社名	
回答者	ご芳名： TEL： FAX： E-mail：
出席	出席します。 （ 名出席）

※恐れ入りますが準備の都合上、5月15日（月）17時までに送信くださいますようお願いいたします。

熊本大学総務部総務課広報戦略室宛
FAX送付先：096-342-3110

【別紙】発見史料の現代語訳

今度私は薩摩へ遣わされ、彼の地で聞き及んだ通り書き上げ申し上げます。

①島津家と領内の一般状況

一、薩摩守様御家中の様子は、いつもの年と変わることはありません。しかしながら、少しは余裕があるように拝見します。町・在郷は、災害により少し被害があるように言われています。見及ぶ限り」 「拝見します。

②鹿児島藩の税制

一、薩摩国中、頭別の銀子の件は、去年は徴収されたけれども、当年はどのようになさるかも情報はありません。別に新しい懸り物（租税）というものはありません。頭別の銀子をお取りになる員数は都合八百貫目だと言われています。これは、町・在郷ともに男女老若に至るまで人別銀を出していると聞いています。去年はかなり出しておらず、未納があるように言われています。

③金山開発の停止

一、金山の口は、開けないと決まったと聞いています。

④鹿児島城普請工事の状況

一、鹿児島城山の下の御屋形に石垣を当年中に築くことになっています。南表の石垣が洪水で流れ」 「できました。高さは堀水際より五間ほどに見えます。東の方の石垣は二十四、五間ほど出ています。高さは右と同じで堀水際より五間ほどです。その続き二十四、五間ほどはまだ出ていません。全体の石垣の高さは」 「尺ほど高く築いているように見えます。門も御立てになるとのこと、柱、その他の材木を集めていると聞いています。それにつき、海辺の石垣の方は築きかけたまま、そのままに置いてあります。

⑤島津領沿岸の異国船警備の状況

一、薩摩国中の浦手御番の様子は、所により五人、または三人ずつ番人が置かれています。異国船が着岸した時は、外城から外城へと注進するようにと命じられていると聞いています。そうして、異国船の乗組員が上陸しなければ、御番所からは決して手を出してはいけないとの御触れです。もし、陸に上がれば、」 「〳〵の外城より、状況により判断して対処してよいとの由、承っています。

⑥島津家の琉球・八重山支配

一、琉球の御仕置については変わることはないとのことです。八重山島のことは、琉球の

王府の管轄なので、薩摩守様よりは手出し（関与）なされないとのこと。

⑦年貢徴収の状況

一、鹿児島藩領内では、去年の年貢は所により大規模な虫害で、百姓たちは困っていると聞いています。まずは未進分を厳しくお取りになり、取り切れなかった分は、ご容赦なさることです。

⑧島津家の財政状況

一、当年は薩摩守様の勝手向きはよいと世間では噂しています。御借銀は利息だけをお払いになっていると聞いています。

⑨島津家中の娯楽

一、御家中侍衆の娯楽は、鉄炮の猟」「などしていると聞いています。

⑩島津光久参勤出立の様子

一、薩摩守様、参勤で御国元を出発する予定は、今月二十日に鹿児島を御発足になります。御供の侍衆は上下ともに九百人余の衆を召し連れられるとのこと、御馬は正月二十九日に二十五疋」「人数二百人ほどで参りました。馬別当は大山□□親子が参りました。

⑪⑫島津家老衆の役割分担

一、御国を統治する家老は、喜入吉兵衛、高崎惣右衛門という人です。甲渡大頂という人も御国中」「仕置をされますが、まずは江戸へ参られると聞いています。

一、今度江戸御供に参られる御家老は、敷根筑前、新納右衛門と申す人が御供だと聞いています。

⑬薩摩の穀物相場

一、薩摩での米の値段は、一石につき銀子三十一匁、大豆は百目につき五石です。米、大豆は在庫が多くあります。

⑭島津家所有の船舶

一、薩摩守様所用の御早船・荷船ともに大小八」「あるとのこと。

⑮島津光久の娯楽

一、薩摩守様の御楽しみは、猪狩りばかりなさっていると聞いています。

⑯島津家中の軍備

一、薩摩守様の御武道具、何も」「御沙汰はありません。御家中・御侍衆も同じです。

⑰島津領での一向宗（浄土真宗）取り締まりの実態

一、薩摩御国中、今はいよいよ一向宗の取り締まりが厳しくなっています。改宗していても心のうちで一向宗を信仰している者を摘発なされたら、まず私財・土地の没収を命じ

られ、それが給人知（家臣の領地）にいる百姓であれば、その給人（家臣）「」をお売りになり、給人から藩が代銀をお取りになります。そして、門（かど）の百姓の本家の主だけを夫婦ともに引き離して、屋久島をはじめ方々の島へ流されます。もし、蔵納（島津家直轄領）の百姓であれば、親族は当面は命を助けおいて、その身代銀をお取になり、これも家主夫婦は同様に引き離しになって島流しにされているとのこと。このような御工夫で、没収した百姓の物をお売りになって、その代銀・身代銀ともに、もはや百貫目ほども集めていると聞いています。

⑩ 細川家の財政状況の薩摩での評判

一、薩摩での細川家中の様子の評判は、熊本御侍衆のことは言うまでもなく、町・在々ともにも事のほか逼迫しているわけではないと噂していると聞いています。また、肥後守様は御借銀は決してないだろうと申す者もいます。また、幕府の御上使・御目付衆が「」お代わりになるので、大変な物入りで、すべてが御国の痛みになるので、御借銀もできるだろうと申す者もいると聞いています。

右は、今度薩摩へ派遣されたのにつき、正月十七日より二月二十五日までの間、鹿児島、その他の在々にて情報を収集し、罷り帰ってすぐ、報告書を提出します。以上。

慶安四年二月廿七日

村田門左衛門（花押）

坂崎清左衛門尉殿